

# 応急仮設住宅におけるコミュニティ形成ツールの提案

## 高齢者を対象としたコミュニティ形成の考案-

インテリア柴崎ゼミ A2201112 齋藤ちとせ

### ■ 概要・背景

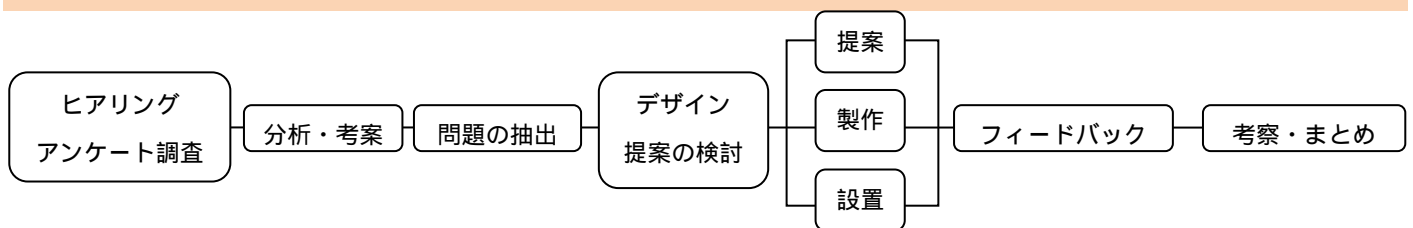
3.11の震災に始まり原発被害などにより、現在も多くの人が各地の応急仮設住宅での生活を余儀なくされている。

更に環境の変化も伴い、周囲と上手くコミュニケーションが取れず籠りがちになっている方が独居の高齢者、男性を中心に多く、孤独死なども問題視されている。この問題は阪神・淡路大震災の際から懸念されており、今日までには見回り隊等の配置が為されているが、高齢者の中には訪問に応じず顔を見せない人も多くいた。このことから、高齢者に目を向けたコミュニティ形成の場が必要だと考えられる。

### ■ ねらい

コミュニティ形成の場やプログラムを作成・提案することにより、引き籠りがちになっている高齢者や男性にも外に出る機会を作り出す。外へ出て周囲の人とコミュニケーションが取れるようになることで孤独死や生活などに対する不安を軽減させ、応急仮設住宅団地内での生活を少しでも改善できるようなコミュニティ形成のツールを提案する。

### ■ 計画



### ■ プロセス

はじめは仮設住宅団地には必ず設けられている掲示板を利用したものを提案できないかと考えていたが、仮設住宅の役場出張所などを訪問し話を伺ううちに「高齢者を中心に掲示板や回覧板に目を通さない避難者も多い」という事が分かり、会津美里町宮里地区の高田仮設住宅団地で生活している榎葉町の方々に協力していただき、10～11月にかけて65歳以上の単身で生活する方を対象にヒアリングによるアンケート調査を行った。

高田仮設住宅団地には250戸(2DK:150戸 2DK×2:50戸)の仮設住宅が建ち、調査を開始した段階で202世帯が生活しており、その中で65歳以上の方がいる世帯は68世帯、その内単身で生活している世帯は31世帯にも上る。

### ■ ヒアリング・アンケート内容

- ・応急仮設住宅への入居直後と現在での生活の変化
- ・現在の趣味
- ・生活の中で不安な事
- ・生活の中で気を付けている事
- ・一日のうちに多く接する人
- ・仮設住宅への入居後の人と接する機会の变化
- ・集会所のイベントには参加しているか
- ・参加したいイベント
- ・榎葉町に戻った際にしたい事
- ・榎葉町の思い出や自慢の場所



## ■ 調査結果まとめ

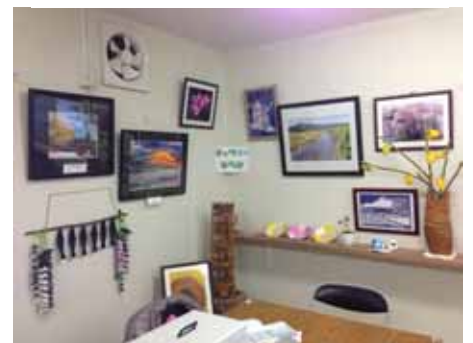
生活の変化については以前よりも慣れてきたという声が多くあり、入居直後は全く余裕がなかったが現在では町を歩いたりするようになったという方は以前から趣味だった散歩や写真が楽しめるようになったと話してくれた。その反面、テレビやDVDや寝てばかりで引き籠ってしまっているという方も多い。生活の中で不安な事は沢山あるが仕方がない、これから雪が降るので不安、などという声が多く、気を付けている事では健康という返答が一番多く、火の気、自分も迷惑しているという理由から音、などと仮設住宅における問題点も浮上した。一日に多く接する人は単身の人はほぼいないと答え、自分自身人見知りをしてしまうため、近所に住む人が元々住んでいたところも違うため馴染めない、人と接する機会も一気に減ってしまったと話していた。集会所で行われるイベントについても殆どの人が参加しておらず、その理由も人のいる場所が苦手、歯が悪く食事好きではないのでお茶会なども参加しにくい、体の調子が良くないと様々だった。しかし、榎葉町については人見知りだ、と言っていた方も海や山、海釣りに海水浴などの思い出を沢山話してくれた。また、夫婦で二人暮らしをしているというお婆さんは「旦那の介護をしながらの生活のため腰や足を痛めてしまった。週に何回かは施設が旦那の世話をしてくれているが、それでも大変。最近は減ってしまったがボランティアの方には生活のお手伝いをして貰えると有り難い」と話してくれた。単身で生活する方に目を向けていたが、高齢者のみの世帯にも気を配る必要があったようだ。

ヒアリングの際には事前に協力をお願いをするチラシを投函したが、取材を断られてしまったり外出中だったりと実際に話を聞いた方は単身の方が3名、複数世帯の方が2名の合計5名だった。話を聞いた方は少なかったが、風除室に手芸品を飾る方や絵を飾る方も何人かおり、素敵な趣味を持つ方が多く暮らしているという事が分かった。

以上の結果から趣味を持った方のためのギャラリーを提案する。高田仮設住宅では11月に北集会所の一角に地域の方や仮設住宅内に住む方の作品を展示する「ならばギャラリー」を展開していたため、外部の掲示板のスペースを利用したものを考案する。



旦那さんと二人で暮らすSさん



ならばギャラリー

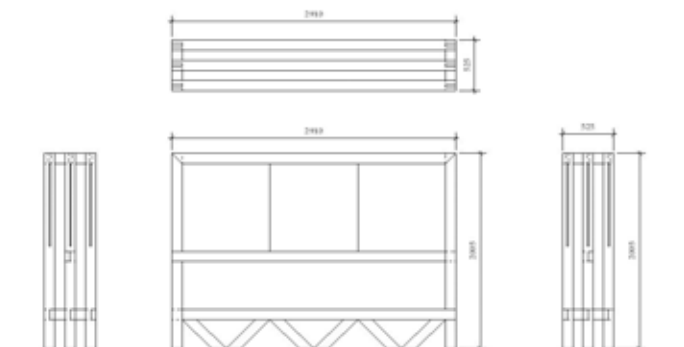
## ■ 提案

### SPACE

ベンチとギャラリーを掛け合わせたもの。北集会所の側には自動販売機や商店があるため、人が集まる場所、というイメージで名付けた。

分解しそれぞれを組み変えることで空間を作ることでもでき、後々掲示板などとしても活用できる。

子供も高齢者も楽しめるギャラリーをコンセプトに、展示する作品は誰でも持ち寄れるようなシステムにしたい。



## ■ 考察

仮設住宅で生活する方々は独居、高齢者に関わらず現在も大変な生活をしている事を実感した。初めは緊張した様子だった方も話していくうちに段々笑顔を見せてくれるようになった。機会さえあればそう言った方も周囲に馴染むことが出来るはずだ。